

主 題：主イエス・キリストの誕生 ③

聖書箇所：ルカの福音書2章11節

私たちの国では去年一日に2841人の方がお生まれになりました。これは30.4秒に一人が生まれたということになります。聖書は私たちに人間は偶然に生まれて来るのではないことを教えています。ここにおられるあなたの誕生も、あなたのお生まれになった場所も、すべては創造主なる神様のご計画であると聖書は教えています。

◎ 我々は何のために造られ、生まれて来るのか？

神があなたを造ったとするなら、何のために神様はあなたをお造りになったのかです。何のためにあなたは生まれて来たのかです。聖書は私たちにその目的を明らかにしてくれています。それは、あなたの創造主なる神を心から信じてその方を心からあがめることです。この方を心からほめたたえ続けて行くことです。そのために神様はあなたを造ってくださった。旧約聖書のみことばがそのことを教えます。我々被造物は創造主なる神に対してどういう責任を負っているか——。この方を大いにほめたたえることです。もちろん我々が神様をほめたたえるためには、この方がどんなに偉大なのかを知ることが必要です。ですから私たちはこうして神様のみことばを学ぶわけです。人が神様によって造られた目的は、あなたがこの世にお生まれになった目的はあなたを造ってくださった神様をあなたが心から信じ、その方を心からあがめることです。そこには例外がありません。国籍も人種も関係ない。人間として生まれたすべての人には、神によって同じことが要求されています。この神を信じ、この方を心からあがめることです。

しかし、残念ながらそのことを人間は行なっていません。ローマ人の手紙の中でパウロはこう言っています。「彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、」（ローマ1:21）と。パウロは人間の問題について教えます。それは神をあがめるために造られた私たちがその神をあがめていない。感謝すべき神様に感謝をささげないで、神でない者に感謝をささげてしまっていると。だから私たちは罪人だと言うのです。神をあがめる者として造られた私たち、しかしその目的に逆らって生きているのが私たち。だから私たちは罪人なのです。

◎ イエス様は何のためにこの世に来られたのか？

さて、このような我々の誕生とイエスの誕生は全く異なっています。主イエス・キリストは創造主なる神を信じるために生れて来たものではありません。彼がこの世にお生まれになったのは、創造主なる神様がどのようなお方であるかをあなたや私に明らかに示すためにです。神と言っても私たちはよくわからない。だからどういう方が神なのかを明らかにするために、イエス様はこの世に来てくださった。そして、もう一つ言うならば、我々人間に対する神様の救いの計画を成し遂げるために、先ほど見て来た罪からあなたを救い出すために主イエスはこの世に来てくださった。だからイエス様はこの世に送られて来たのである。その言葉がふさわしいのはそういう理由があります。イエス・キリストは父なる神によってこの世に送られて来たのです。何のために送られて来たか——。それは、あなたや私に最も必要な罪の赦しを、この救いを私たちに与えるためにです。

1. イエスは「約束の救世主」

イエスは一体だれなのか——。彼は約束の救世主である、約束のキリストである、約束のメシヤであるということが言えます。二つの出来事がそのことを明らかにしているので、今からその出来事を皆さんにお話ししましょう。

① 天使のメッセージ：ルカ2:11, 20

一つは天使が羊飼いたちに語ったメッセージによってです。羊飼いが野に出ている時に、天使たちが現れて、神様からのメッセージを告げました。ルカ2:11に「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」と記されています。つまり天使が羊飼いたちに告げたことは、あなたたちの待望の救い主、救世主がお生まれになったのだ、あなたがたひとりひとりを造ってくださった創造主なる神があなたを救うために、この世に人としてお生まれになったのだということでした。天使のメッセージ、約束の救世主が生まれたというメッセージでした。

② 東方の博士たちの行動マタイ2:1-12

もう一つの出来事は、東方の博士たちの訪問の話です。マタイ2:1-2に「:1 イエスが、ヘロデ王の

時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。『2 『ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。』』と、東方の博士たちがエルサレムにやって来た様子が記されています。彼らは一体だれなのか——。「東方」というのは、恐らくペルシャ、現在のイランを指しています。非常に長い旅をして、彼らはエルサレムにやって来ました。ユダヤの中心です。なぜここにやって来たのかというと、聖書は神が導かれたと教えます。同時に彼らの中にも、この救世主の誕生についてエルサレムにさえ行けば、人々はみんなそのことを知っているという思いがあってやって来ました。そして結果だけ見ると、彼らはお生まれになった救世主を探し当てて礼拝した様子が2章の中に記されています。

この東方の博士たちは救世主が生まれるということを知っていたということです。実はその当時のペルシャやバビロンは人々が往来していました。私たちが歴史から学ぶことは、バビロンによってイスラエルの南王国が滅び、バビロンの捕囚がありました。そして多くのユダヤ人たちがバビロンに引いて行かれた。その中にいたひとりがダニエルです。ダニエル5章を見ると、ダニエルはそこに存在したすべての学者よりも高い地位に置かれていることが記されています。どんな学者たちが存在したのかというと、星占いをする者たちの上に置かれたと。ですからダニエルたちを初めこういった多くのクリスチャンたちの影響によって、多くの者たちが約束の救世主の誕生について教えられた。そしてすばらしいことは、この東方の博士たちはその救世主を探しにやって来たということです。すごい働きを神様はなさるのです。

もしあなたがその救い主を心から信じようとするならば、主はあなたの心に働いてくださる。私たちの問題は我々自身が救世主を求めていないところにあります。キリスト教が入って来る前の日本人は全然救われなかったのかは私たちにもよくわかりません。しかし、わかっていることは、神はお造りになったすべての被造物をもってご自身の存在を明らかにしておられる。ですから、どの時代であっても、どこの国にあってもだれひとりとして、自分自身が自分の罪ゆえに永遠の滅びに、さばきに至った時に、神の前に不満を言うことはできない。なぜかというと、神は被造物によってご自身の存在を明らかにしておられるからです。だれもその神の前で弁解することはできない。ですから、キリスト教が、聖書の話が伝わっていなくても、神のお造りになった自然界を見て、神の前に心を開いていた人たち、神を求めていた人たちには神様は必ず神ご自身の計画に基づいてすばらしいみわざをなしておられたでしょう。ここを見た時に、何人いたかはよくわかりませんが、ペルシャにいた博士たちがこの救世主の話聞き、彼ら自身がその救世主を求めていた。それゆえに神ご自身が彼らをその救世主のところへと導いて来られた。すごいみわざがなされたのです。そしてクリスチャンの皆さん、あなたが救われているのは、同じように神があなたのうちに働いてくださったからです。神があなたをこの救いへと導いてくださったのです。

さて、この東方の博士たちのことをもう一度見ると、彼らは救世主が生まれるという預言を知っていました。そして彼らは主の導きによってこの救世主を探しに来ただけではない、実際に救世主にお会いしているのです。それがこの2章の中に記されています。ですからこの二つの出来事を見た時に、天使のメッセージや東方の博士たちを導いて来られた神様が、これらのことをもって明らかにしているのは今から約2000年前、あのベツレヘムに確かに約束されていた救世主がお生まれになったということです。天使が言ったとおりに、そして主の導きどおりにこの約束の救世主がこの世に人としてお見えになったのです。

2. イエスが「約束の救世主」であることの証拠

さて、ここまで話すと、多くの人たちは「それはあなたがクリスチャンだからそう信じているのではないですか」と言うかもしれません。感謝なことに我々の信仰というのは盲信ではありません。信じる以上そこには根拠があります。イエスが約束の救世主であることの証拠を今から幾つかお話ししたい。クリスチャンの皆さんはぜひ覚えていただいて、こういう証拠のもとに私たちは信じています、確信を持っていますと。まだイエス様をお信じになっておられない皆さんはぜひそのことを考えていただいて、この救い主を心から信じていただきたいと願います。

イエスが約束の救世主であることの証拠は三つあります。

① 預言の成就（救い主に関する）

それは救い主に関する預言の成就です。

(1) 出生地：ベツレヘム

まず一つ目に、イエス・キリストがお生まれになったのはベツレヘムであるということを繰り返して来ましたが、実は旧約の時代において、この救世主が生まれるところがどこであるかを預言者は明らかにしていました。マタイ2章で東方の博士たちがエルサレムを訪問した時に、ヘロデ王様のところへやって

来ました。ヘロデの動揺した様子がここに記されています。マタイ2:2「『ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。』」、3節には「それを聞いて、ヘロデ王は恐れ感った。」とあります。私だけがユダヤの王だったのに、この旅人たちはユダヤ人の王として生まれた方がいると、一体だれなのだろうと、非常に混乱している様子を我々はいかに知ることができます。そこでヘロデ王様はおもしろいことをするわけです。4節「王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。」とあります。こんなことを言っているけれども、救い主というのはどこで生まれるのだとこの人たちに聞いたところ、驚くべきことは彼らは答えを持っていたということです。5節で彼らは王に「『ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。:6「ユダの地、ベツレヘム。』」」と言います。引用された箇所はミカ5:2です。旧約聖書で預言者ミカによってなされた預言を彼らはここで引用するのです。

つまりこのクリスチャンでもない祭司長たちや旧約に通じる学者たちを集めてヘロデ王様が聞いた時に、彼らはちゃんと知っていました。旧約聖書のミカ書の中に救世主がどこで生まれるのか、その町の名前が記された箇所があると。そしてこの箇所を挙げたわけです。私たちが覚えたいのは、このミカ書が記されたのはイエス・キリストの誕生後に記されたのか、誕生前に記されたのかです。明らかにイエス・キリストが生まれる前に記されています。ではどれくらい前だったのか——。実はミカ自身がそのことを我々に教えてくれます。ミカ1:1に「ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に」とあります。つまりミカ自身が存在し、彼自身が主によって用いられたのは「ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ」の三人の王様の時代です。これは南王国ユダを治めた実在の王様たちの名前です。ヨタム王様は紀元前750年から731年、アハズ王様は731年から715年、そしてヒゼキヤは715年から686年に存在した王様です。つまり、ミカが存在し、働きをし、そしてこのミカ書が記された時期というのは、イエス・キリストが生まれる700年も前だということです。そんなに前に記された預言が700年たって成就しているということです。

しかも、ミカ1:6にはサマリヤの話が出て来ます。つまりミカがこれを記した時にはまだサマリヤは滅びていないのです。サマリヤというと北王国イスラエルです。イスラエルが滅んだのは紀元前722年ですから、ミカ書はアッシリアによって北王国が滅ぼされる前に記されていることが分かるのです。こうして見た時に、主イエス・キリストが生まれる700年も前に救世主はベツレヘムに生まれるのだという預言がされ、そして今私たちはその救世主がベツレヘムに生まれたことを見ているのです。

(2) 裏切り

さて、イエス・キリストの生涯を振り返っていただくと、イエス・キリストはイスカリオテのユダというひとりの弟子によって裏切られます。約3年以上寝食を共にした弟子のひとりがイエスを裏切った。しかしその裏切りに関して聖書が預言したという事実です。

実は詩篇55:12-14に、「:12 まことに、私をそしめる者が敵ではありません。それなら私は忍べたでしょう。私に向かって高ぶる者が私を憎む者ではありません。それなら私は、彼から身を隠したでしょう。:13 そうではなくて、おまえが。私の同輩、私の友、私の親友のおまえが。:14 私たちは、いっしょに仲良く語り合い、神の家に群れといっしょに歩いて行ったのに。」とあります。このみことばは、イエスを裏切る人物というのは、救世主を裏切る人物というのは彼の親しい仲間であったと。そしてそれは誰のことを指しているのか私たちは分かっています。預言されていたことがまさにイエス・キリストの身に起こったわけです。詩篇41:9にも「私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた。」と書いてあります。ですから、イスカリオテのユダの裏切りというのは偶然ではなく、実はそのことも預言されていた。救世主が必ずこの世にお見えになる。そしてその救世主は親しい仲間によって裏切られる、その預言が成就したということです。

(3) 30枚の銀貨

そしてまたイエス・キリストがイスカリオテのユダによって売られ、イスカリオテのユダと祭司長たちが取引をする場面が出て来ます。ユダはイエスを銀貨30枚で祭司長たちに売りました。それも実は旧約聖書のゼカリヤ11:12に出て来ます。ゼカリヤ書は紀元前480年から470年の間に書かれました。もっともっと見ることができるのですが、これらの出来事は偶然起こったことではないのです。ちゃんと預言されていたことが預言どおりに起こったのです。

(4) 死

もう一つだけ挙げると、イエスの死についてです。主イエス・キリストは十字架で処刑されたことを皆さんはご存じです。調べてみると、この十字架についての最初の歴史的記録は紀元前519年にペルシャの王であったダリウスによると書いてあります。つまり人が十字架で処刑された最初の記録は、紀元前519年にさかのぼると言うのです。その時に初めて人が十字架で処刑されたのです。

聖書は、生まれて来る救世主は必ず十字架で処刑されるのだということを預言していました。イザヤ

53 : 5に「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、」とあります。これが十字架の預言であると言われています。このイザヤ書が記されたのは紀元前700年から681年です。先ほどのミカ書と同じようにイザヤ書1 : 1にもイザヤが活躍した当時の王様の名前が出て来ます。ウジヤ王がいて、ヨタム王がいて、アハズがいて、ヒゼキヤ王がいたのです。ウジヤ王様は紀元前790年から739年まで、ヨタム王様は紀元前750年から731年まで。つまりその時代にイザヤがいたということを明らかにしています。そしてさっきもお話ししたように、イザヤの預言というのは、主イエス・キリストが生まれる約700年ほど前の話です。

そうすると、イエス・キリストが生まれる700年前に、生まれる救世主は十字架で死ぬのだと預言されたのです。そして実際に十字架刑で人々が殺された記録は紀元前の519年にしか出て来ない。つまり700年前に十字架で死ぬと預言された時に、まだ地上には十字架刑が存在していなかったということです。十字架刑が存在していない時から、この世にお見えになる、私たちを罪から救ってくださる救世主は十字架で死ぬことを聖書は預言したのです。驚くべき記録です。そして、今我々はイエスが十字架で亡くなったことを知っています。確かに旧約聖書の中に、お生まれになる救世主がどういう方なのか、どこで生まれどういふうに生き、どういふうに死んで行くのか預言されています。今私たちは、主イエス・キリストを通して、救世主に関する特に四つの預言が成就したことを見て来ましたが、生まれて来る救世主に関する預言は三百以上もあります。そして驚くべきことは、それがイエス・キリストによって成就しているという出来事です。ですから預言の成就に関してだけでも、イエスはまさにこの約束の救世主であったと私たちは見ることができます。

② 弟子たちの証言：「キリストである」

二つ目の証拠は、弟子たちの証言です。マタイ16 : 16で「人々は人の子をだれだと言っていますか。」と、イエスが弟子たちに質問をします。「ペリポ・カイザリヤの地方に」行った時に、そのような質問をイエスが弟子たちにしたことがマタイ16 : 13に記されています。その時、弟子たちは「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」とイエスに告げました。そこでイエス様が今度は弟子たちに「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」と聞きます。そうすると、16節でペテロは「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と言っています。その質問に対して弟子たちの代表であったペテロは「あなたは神であり、そしてあなたは救い主です」と言うわけです。生活をともにし、イエス・キリストのなされる奇跡を見て来たのです。イエスが一体どういふお方であるか、彼らは見て来たのです。そしてその結果、彼らが引き出した結論は、確かにこのイエスは約束の救世主だ、その確信を持ってペテロは「あなたは、生ける神の御子キリスト」、救世主だと告白したのです。イエスの一番身近にいたひとりの人物が、このように告白しました。

③ イエスの証言

三つ目はイエスご自身の証言です。マタイ16章のペテロの告白があった後、イエスのご自分がこれからどういふことを経験なさるのかを人々の前で公になさっています。マタイ16 : 20「そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。」とあります。まだその時が来ていなかったからです。でも、イエスのご自分がキリスト、救世主であるということを否定していません。ペテロがした「イエス様、あなたはまことの神であり、あなたは救世主です」という告白をイエス様は肯定しています。しかも21節を見ると、「その時から」とあります。つまりこのペテロの告白があって、その時からです。ペテロは弟子たちを代表してこのように言ったのです。恐らくイスカリオテのユダを除いて、周りの弟子たちも同じように告白したでしょう。「イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」、何が起こったかわかります？ペテロは代表して「あなたは神であり、救い主です」と言いました。そしてその後、イエス様はこの後私は処刑されて行くのだという話をするわけです。

ご自分がまことに救世主だからです。この救世主イエスはご自分の罪のないのちをあなたのために捨てることによって、あなたの罪の赦しを実現してくださる方です。あなたの罪が赦されるためには、犠牲が必要なのです。あなたの身代わりが必要なのです。誰かがあなたに代わってあなたが受けるべき罪のさばきを受けなければいけない。だからイエス様はこれから私があなたに代わってあなたの罪のさばきを受けると言われたのです。イエス様はただご自分が救世主だと言ったのではない。イエス・キリストは救世主であるがゆえに、あなたの身代わりとなってこれから死にますということを明らかにされています。この時点から、イエス様はそのことを人々の前に明らかにされたとみことばは言います。

つまり今私たちは預言の成就を通して、確かにイエスが約束の救世主だということを見て来ました。イエスとともに生活をして来た弟子たち、ペテロが代表して言うわけですが、彼らは「確かにあなたは約束の救世主です。私たちはあなたの奇跡を見て来ました。私たちはあなたの教を聞いて来ました。あなたがどういふ方であるか見て来ました。確かにあなたは約束の救世主です。」と言うのです。そして今度イエスご自身は、私がおの救世

主なのだということを明らかにしている。なぜなら、あなたの罪を負って十字架で死んでくださった方はこの方だけです。イエスはこの後私は十字架にはりつけにされ、殺された後、三日後によみがえると。イエスの身代わりの死によって、あなたのすべての罪は赦されます。その保証はイエスが死からよみがえって来た、そのよみがえりです。それによってこの方がまことに救世主であり、この方がまことに神であることが明らかにされた。神だからあなたの罪を赦すことができます。神だからあなたを救うことができます。神が送ってくださった救世主です。

イエス様は何度も言われました。「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。』(マルコ10:45)とイエス様は言われました。私が私のいのちをささげるのは、それによって罪あるあなたの罪が赦されるためだと。イエス様が繰り返し教えておられることは、私はあなたのためにいのちを捨てますと。罪のない私が罪あるあなたの罪の身代わりとなって死にますと。私があなたが受けるべきさばきを受けるゆえにあなたはそのさばきから解放され赦しをいただくのだと。主イエス・キリストが来たのは、「多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるため」、イエスは喜んでご自分のいのちをささげてくださった。「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。』(ルカ19:10)、罪の中をさまよい続けている、そんな人を救うために来た、イエス様はあなたを罪から救い出すために、あなたを永遠のさばきから救い出すためにこの世に来てくださった約束の救い主なのです。

★結論

さて、もう一度マタイ2章を見てください。東方の博士たちに話を戻しましょう。

東方の博士たちというのは賢者であると言われます。その国にあって非常に重んじられていた人々です。彼らは学者たちです。非常に知恵があった。ですから、英語の聖書では“wise man”と書いています。非常に知恵があった、賢者たちであったと。我々は彼らの行動の中にそのことを見ることができます。彼らは確かに人間の基準から言って賢者でした。でも今はそんな話をしているではありません。彼らは確かに神の前に賢者だったのです。彼らの行動に見ます。

① キリストを捜し求めた

一つ目は、彼らは救い主を捜し求めました。マタイ2:1-2にそのことが出てきます。「:1 見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。:2 『ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。』」、この1節に「言った」と出て来る動詞は、現在形です。つまり当時こういうことがなされたのです。東方の博士たちがエルサレムにやって来ました。最初からヘロデ王様のところに行ったのではないのです。彼らはエルサレムにやって来て、いろいろな人たちに同じ質問をし続けたのです。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこでお生まれになったのですか」と、人々に聞き回っていたと書いてあるのです。最初にもお話をしたように、彼らはそう質問をしたらみんなが答えてくれると思ったのです。「救い主はあそこで生まれたのだ」と返事が返って来ることを期待していたのですが、だれもそれに答えることはできない。そして遂に彼らはヘロデ王様のところに行くことになりました。

そしてもう一つ、この1節で「ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき」とあるので、イエス様が生まれた時に東方の博士たちがやって来たように思ってしまうのですけれども、この「お生まれになった」という動詞の時制は過去です。ということは、イエス・キリストがお生まれになってしばらくたってから東方の博士たちがやって来たのです。ですから東方の博士たちが訪問したイエス様のおられたところというのは、飼いや馬小屋であるとは記されていないということです。英語の聖書には「イエス様のお生まれになった後」ということばを加えています。一体どれだけの期間がたったのか私たちにはよくわかりません。しかし、お生まれになって、羊飼いたちが訪問して崇拜した、それと同じ時ではなかったということはこの1節のことばから見るすることができます。いずれにしろ、私たちがまず覚えておきたいことは、東方の博士たちは救世主を、救い主を求めて、東から旅して来たということです。どれだけ遠くても彼らはこの救世主を捜してやって来たのです。

② 主の導きに従った

二つ目に、今のことと非常に関連して、彼らが本当に賢者であったというのは、彼らは常に神様の導きに従っていることです。ペルシャにいた時にどういう形で彼らがそのことに気づいたのか記されていませんが、彼らは神様の特別な働きによって救世主が生まれたことを知らされて、その救世主を捜しにやって来るわけです。その神の導きに従っています。そして、エルサレムまで導いて来た神様からの特別な啓示というのが、エルサレムに着いた時にはどうもなかったようです。ですから一生懸命その場所を探っています。そしてその後マタイ2:9「彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し」とあるわけで、何かこの星の働きと関係している。というのは彼らは占星術にたけていたからです。ダニエル5:11を見ると、ダニエルは先ほどもお話ししたように、星占いを行なう者たちの長に任せられた様子が記されています。そういう星を見ていろいろなことを占った人たちがたくさんいた。どちらかという、それは正しいことではなくて間違っただけのこととして我々は見ますが、しかし、このような中であって、そのような働きをしている人たちの中に神のメッセージを聞き、そして神のメッセージを信じ、そのメッセージに従った者たちがいたということです。彼らはそう

して星の導きに従ってエルサレムにやって来ました。

その後、この星の導きに従って彼らは歩いて行きます。そしてイエス・キリストのところに彼らは到達するわけです。12節「それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。」と、彼らはあくまで主の導きに従っています。だから賢者です。神の前に知恵のある者たちです。どの時代でも神様が知恵があると判断なさる人は、神様のみこころに従って行く者たちです。神のみことばに従う者たちこそが神の前に知恵ある人たちです。そういう者たちであったということがわかります。

③ キリストを礼拝した

もう一つ言えるのは、11節を見ると、東方の博士たちはイエスを見つけた時に、イエスを崇拝しています。「そしてその家にはいて、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。」と。イエスのもとにやって来た時にこの博士たちはイエスを崇拝しました。そして贈り物が三つあります。そこから東方の博士たちは三人であったろうという説が出てきました。でも聖書の中にはどこにもそのことが記されていません。この三つの贈り物に関していろいろな考えがあります。例えば、この黄金というのは、王様を象徴する金属です。ですからこの贈り物によって、この方が王であると。そして乳香というのは白い、香りを持ったもので、木の樹脂から取れる、非常に高価なものでした。レビ記2章を見ると、神様に穀物のささげ物をする時に底にこの乳香を混ぜてささげるといことが記されています。ということで主へのささげ物であると。そして没薬というのは埋葬に用いたのです。ということから死を意味していると。

ですからこの方は王であり、そして主へのささげ物、人としてお見えになったゆえにこの方は死を経験すると。確かにそういう説もあるのですけれども、私たちが覚えておきたい大切なことは、彼らはお生まれになる方が誰かを知っていました。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方」と言いました。彼らが持って来た三つのささげ物というのは、非常に高価なものでした。余りにも高価だから、一般的にこういうものを人にプレゼントすることはなかったのです。博士たちはその最も高価なささげ物を持ってこの王を拝みに来たのです。彼らは思ったのです。この王にとってふさわしいこと、この王の誕生に我々が感謝するにふさわしいことは何か——。自分たちが喜んで犠牲を払ってその王のところに出て来るだけではない、犠牲を払ってでも最高のものをこの方にささげる。それがこの方にはふさわしいと。

こうして見た時に、本当に神様の喜ばれる礼拝をささげる者たちの姿勢というものを思いませんか？彼らは喜んで神のために犠牲を払うのです。たとえどんな犠牲であったとしても。なぜならそのすべては神様にふさわしいと判断するからです。神様に最高のものをささげよう、それにふさわしいお方だからと。最初に見た羊飼いはその幼子を見て、神をあがめながら帰って行きました。東方の博士たちは、お生まれになった約束の救世主を見た時に彼を崇拝します。それが私たちの造られた目的だった。彼らは神に対して正しい応答をするのです。彼らはこの神を心からほめたたえ、この神様を心からあがめたのです。

ではほかの人たちはどうだったのでしょうか。ヘロデ王のところにやって来た時に、彼らは「どこでお生まれになりましたか」と質問しました。祭司長たちは「ベツレヘムです」と、ちゃんとその場所を知っていました。なぜ彼らはこの方を拝みに行かなかったのですか？救世主が生まれたということを聞いていながら、知っていながら、なぜ彼らは真っ先にそこに出て行かないのですか？なぜ彼らは「私たちも行って、彼を拝んで来たい。あの場所はそこなのだ」と言わなかったのですか？エルサレムからベツレヘムまでわずか8キロしか離れていないのに、なぜ行かないのですか？悲しいことにこういう人たちが私たちの周りにはあふれています。いろいろな情報を知っているのです。ひょっとしたら聖書の話も知っているかもしれない。でも彼らは神の前にひざまずいて彼を崇拝しようとしません。何のために我々人間が造られたのか——。この方を信じ、この方を心からあがめることです。この方に礼拝をささげることです。羊飼いたちはそうでした。東方の博士たちもそうでした。しかし、多くの宗教家たちは、知ってはいましたがしませんでした。

この国においても多くの人がクリスマスを祝っています。悲しいことにキリストのいないクリスマスです。彼らは何を祝うのでしょうか？なぜクリスマスがこんなにすばらしいのか、キリストを除いて一体どこに喜ぶべきニュースがあるのでしょうか。クリスマスを祝うのは救世主が来てくださったからです。約束の救世主がお生まれになったから我々は祝うのです。そしてこの方によって完全な救いが備えられ、そしてその救いに私たちが招かれたから、そのことを喜ぶのです。救世主を除いてなぜ人々はクリスマスを祝うことができるのでしょうか。この方は確かに約束の救世主でした。そして彼は約束どおりに2000年前にあのベツレヘムで生まれたのです。そして約束どおりにみずから進んで十字架に架かり、あなたのすべての罪をその身に負って身代わりとなって死んでくださった。そして三日後によみがえることによって完全な救いを備えてくださった。

我々がクリスマスをお祝いするのは、約束の救世主によって完全な救いが備えられたからです。そして神はあなたをその救いへと招いてくださるのです。羊飼いは行きました。東方の博士たちも行きました。でも祭司長たちは行きませんでした。エルサレムの多くの人々はこの救世主のところに彼を拝みに行かなかった。彼に感謝もささげなかった。彼らと同じような人たちがこの中にいません？救世主が来てくださって救いを備えてくださったのに、その方を拝もうともしない。その方に感謝を表そうともしない。そんな大きな罪を犯し続けるのはやめてください。イエス・キリストはあなたを救うために来てくださった。ご自分のいのちと引き換えにあなたにすばらしい完全な永遠の救いを備えてくださった。なぜその救いを拒み続けるのですか？どうぞこのクリスマス、この救世主を心からあがめる者に、感謝する者に、心から信じ、このすばらしい救いをいただくことをあなたに願ってやみません。どうぞこのすばらしい救いをお受けください。そしてともにこのクリスマスを祝う者、約束の救い主の誕生を祝う人に生まれ変わってください。神様はその祝福をあなたに下さる、あなたがこの方の前に出て行く時に、そのことを心から願います。

《ヨハネ 5：39－40》

:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。

:40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。